

パブリック・コメント結果
(提出された意見等の概要とこれに対する考え方)

案 件 名 : 芸術文化振興ビジョン【改訂版】(素案)
 意見募集期間 : 平成26年11月20日～平成26年12月10日
 意見等の提出件数 : 22件(14人)

	項目等	意見等の概要	県の考え方
1	【ビジョンの基本的な考え方】	ビジョンを実現するための役割がそれぞれ記載されているが、県民の役割が明確でない。もう少しわかりやすく書いたほうがよい。	【ビジョンに盛り込み済】 県民はさまざまな場面で芸術文化活動に関わるので、「ビジョンの役割」(P9)では、県民の役割として「「芸術文化活動」へ「する」「見る」「支える」の視点から積極的な参加」と簡潔に記載していますが、その具体的な役割は、8章「課題と展開方向」の中で具体的に記載しています。
2	【成果指標の設定】	成果指標を達成するためには、県の取組だけでは限界があるので、ビジョンの意義・内容を市町や関係団体にもしっかりと周知することが必要。また、県と市町が一体となって進めるため、研修会の開催等の体制整備が必要。	【今後の取組の参考】 市町等との連携強化については「県民・団体・企業、行政等各主体の連携体制を強化する」(p36)の中に記載しています。研修会の開催等の具体的な方策については、今後検討していきます。
3		成果指標2に関し、各地域にあるすばらしい人的資源、文化資源、自然資源に気づくきっかけさえあれば、割合も高まっていくと思う。	【ビジョンに盛り込み済】 「伝統文化、地域文化資源を活用して、地域の文化力を高める」(p29)の中に記載していますが、市町とも連携し、県内にある文化遺産や歴史遺産、人材の発掘・活用を進め、成果指標の達成に努めます。
4	【課題と展開方向】 (1)芸術文化を創造・発信する ①芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する	県内外の若手アーティストを対象としたコンクールを新設し、芸術文化センターや県内のホールでの発表、演奏の機会を与えてはどうか。また、優秀なものには、ブランドや賞を創設し、演奏機会を後援するとよい。	【ビジョンに盛り込み済】 「芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する」(p17)の中にも記載していますが、県内には多数の顕彰制度、コンクールの場があります。今後も若手芸術家の出演機会の充実を図るなど人材育成に取り組みます。
5		施設には最低限の舞台技術者の配置が望まれる。ピッコロ舞台技術学校等とも連携してはどうか。	【ビジョンに盛り込み済】 これまでから、ピッコロ舞台技術学校の卒業生は、県内の文化施設等で活躍しているほか、県内の文化施設職員がピッコロ舞台技術学校を研鑽の場として活用している事例もあります。今後とも舞台技術に関する人材育成に取り組みます。
6		ピッコロ劇団やピッコロ演劇学校、ピッコロ舞台技術学校等から多数の人材が輩出されているが、これらの人材を活用する“場”が広がっていない。地域の舞台技術はボランティアが多いが、安全面からもこのような技術者の卵たちを公立文化施設で活用できるとよい。	【今後の取組の参考】 ピッコロ演劇学校、舞台技術学校の卒業生は、これまでから民間劇団や舞台制作会社、公立文化施設等で活躍しており、今後とも文化施設の技術向上に貢献できる人材育成を進めるための参考とさせていただきます。
7	(1)芸術文化を創造・発信する ②芸術文化の拠点機能を高める	「芸術文化センター」などの劇場・音楽堂等の位置付けがあいまいなので、明確にしたほうがよい。	【ビジョンにご意見を反映】 ご指摘のとおり「芸術文化の拠点機能を高める」の展開方向(p19)の中で、「芸術文化センター」等の位置付けを明確にする表現に修正しました。

	項目等	意見等の概要	県の考え方
8	(2)芸術文化の”場”を育て拡げる ①地域で多様な”場”を育て拡げる ②青少年が本物の芸術文化に親しむ	PACオーケストラだけでなく、アマチュアオーケストラによるアウトリーチ活動も追加してほしい。アマチュアには、①活動が身軽、②コストが安い、③プロよりも身近に感じられるなどのメリットがある。	【ビジョンにご意見を反映】 誰もが身近に芸術文化を親しめる環境づくりを進めるためには、アマチュア芸術家のご協力も不可欠であり、「地域で多様な”場”を育て拡げる」の展開方向(p22)の中で、アマチュア芸術家との連携が図られるよう文言を修正しました。
9		県内の高等学校のオーケストラを学校へ派遣し、同世代に見ていただくことは、若い世代の音楽文化への興味の誘導と部活動の活性化を高める一助になるのではないかと。	【今後の取組の参考】 「青少年が本物の芸術文化に親しむ」(p23)の中にも記載していますが、学校教育と連携し、幅広い体験の場を育てることとしています。具体的な事業については、今後の取組の参考とさせていただきます。
10	(2)芸術文化の”場”を育て拡げる ②青少年が本物の芸術文化に親しむ	子どもにとって一流の劇団の舞台を見る等の体験は、ゲームやテレビでは得られない楽しみや感動を味わえ記憶に残ると思う。学校教育の場で「わくわくオーケストラ教室」などの芸術文化に親しむ機会が今後も充実していけば、親として大変喜ばしい。	【ビジョンに盛り込み済】 「青少年が本物の芸術文化に親しむ」(p23)の中にも記載していますが、引き続き学校教育を通じて青少年が芸術文化に親しむ機会の充実に取り組みます。
11		「わくわくオーケストラ教室」や「ピッコロわくわくステージ」なども意義があるが、さらに地域の実情に合わせた形で、年齢にあった内容を重ねて追体験できる機会があれば、より効果が期待できるのではないかと。	【今後の取組の参考】 「青少年が本物の芸術文化に親しむ」(p23)の中にも記載していますが、学校教育との連携を推進し、子どもが芸術文化に親しめる機会の充実に取り組みます。具体的な事業については、今後の取組の参考とさせていただきます。
12	(2)芸術文化の”場”を育て拡げる ③芸術文化を通じた世代間交流を促進する (3)文化力を高め、地域づくりに活かす ②伝統文化、地域文化資源を活用して、地域の文化力を高める	学校教育と地域や伝統文化団体との連携が必要。芸術文化団体から協力できる内容や人材、学校との窓口を示せば、学校側が利用しやすいのではないかと。これに学校支援地域本部事業や放課後子ども教室などの事業と組み合わせれば世代間交流にもつながる。	【今後の取組の参考】 「芸術文化を通じた世代間交流を促進する」(p24)の中にも記載していますが、学校教育と地域や芸術文化団体との連携に取り組みます。具体的な事業については、今後の取組の参考とさせていただきます。
13	(2)芸術文化の”場”を育て拡げる ④芸術文化施設を活用し、適切に維持・保全する	公民館や文化施設を実際に借りようとすると決まり事が多くて自由に活用できない。県民が使いやすいように柔軟な活用ができるよう工夫してほしい。	【ビジョンにご意見を反映】 「芸術文化施設を活用し、適切に維持・保全する」の展開方向(P27)の中で、県民ニーズに沿った施設運営が行われるよう、文言を追加しました。
14		公立文化施設の大規模改修は必要であるが、闇雲に舞台装置の高度化を図るのではなく、必要な施設に必要な機能を設置するよう割り切るべきである。	【今後の取組の参考】 ご意見については、今後の安全・安心・快適な施設づくりの参考とさせていただきます。

	項目等	意見等の概要	県の考え方
15	(3)文化力を高め、地域づくりに活かす ①生活文化を高める	本ビジョンの対象範囲が生活文化を含んだ広い概念としていることに賛同する。展開施策となると音楽や演劇中心になり「日常の場面」の芸術文化に対する方策は難しいと思うが、意識して取り組んでほしい。	【ビジョンに盛り込み済】 「生活文化を高める」(p27)の中にも記載していますが、学校、家庭、地域を通じて、生活文化の振興に取り組みます。
16		学校の授業で伝統文化を伝えることは意義深い。日本の伝統文化は、礼儀作法や言葉遣い、相手への思いやり・配慮などを学ぶ機会にもなる。学校現場は多忙だと思うが、少しでも実現してほしい。	【ビジョンに盛り込み済】 「生活文化を高める」(p27)の中にも記載していますが、学校教育の中でも、伝統文化教育の充実に取り組みます。
17	(3)文化力を高め、地域づくりに活かす ④産業づくりを進める	産業部門との連携は大切である。日本では古来から文化的要素をものづくりに取り入れてきた伝統があり、海外製品との差別化を図るため、今後ますますこのような視点が必要。	【ビジョンに盛り込み済】 「産業づくりを進める」(p32)の中にも記載していますが、ものづくりや観光の分野などで、産業部門との連携に取り組みます。
18		伝統工芸品を守ることは必要だが、単なる継承でなく、ニーズや海外のトレンド等を先取りし、“革新”を起こすことも必要。美術系大学やデザイン系専門学校と伝統的工芸品をマッチングするような、新たな価値の創造のための橋渡しを行う取組を追記できないか。	【ビジョンにご意見を反映】 伝統的工芸品に異分野とのマッチングにより新たな価値を付加することも重要であり「産業づくりを進める」の展開方向(p33)の中に追記しました。また、具体的な事業については、今後の取組の参考とさせていただきます。
19	(4)みんなで支え、総合的に取り組む ①県民自らが芸術文化を支え育てる	兵庫県生活文化大学において、アマチュアオーケストラから講師を招聘し、クラシック音楽やオーケストラ活動に関する講座を開催すれば、一般の方も演奏会に足を運びやすくなり、芸術家を支え育てる目を持つ観客の育成につながるのではないかと。	【今後の取組の参考】 「県民自らが芸術文化を支え育てる」(p34)の中にも記載していますが、生活文化大学では、音楽を身近に感じ楽しみ、鑑賞者のすそ野拡大を図るため、「音楽鑑賞講座」や「伝統芸能講座」等を開催しています。具体的な事業については、今後の取組の参考とさせていただきます。
20	【その他】	主な取組として列挙されている事業のうち、新規、拡充、継続の区分も明確にした方がいいのではないかと。	【今後の取組の参考】 本ビジョンは施策の方向性を示すものであるため、個々の事業に予算区分は記載しませんが、今後ビジョンに沿った施策体系表の整理の際に参考とさせていただきます。
21		「施設」に係る表現が様々であり、明確に使い分けられているのか。混乱を招くのではないかと。(芸術文化施設/公立文化施設/県内の各施設/県立施設/県立芸術文化施設/市町立文化施設/市町文化施設/芸術文化拠点施/文化施設等)	【ビジョンにご意見を反映】 ご指摘のとおり、「施設」に係る文言を統一します。
22		県民モニターアンケート「地域の文化的環境の充実に必要な事項」として上位3つが掲載されているが、アンケートの全容を示してもらいたい。	【ビジョンにご意見を反映】 ご指摘のとおり、県民モニターアンケート調査(p6)については、全体の結果を記載しました。